

はじめに

ふん尿処理には、通常、堆肥舎やスラリーストアといった高額な施設を必要とし、大きな負担が伴うと考えられています。これまで、いろいろなふん尿処理施設が考えられてきましたが、新しい施設や機材に関心が払われ、必ずしも低コスト化への努力が十分だったとはいえません。

この度、道立農業試験場では、「家畜排せつ物法」の管理基準に適合し低コストな管理を行うため、シートを使い自分で整備可能なふん尿処理施設の研究を進めてきました。平成16年の家畜排せつ物法の適用をにらみ、シートを利用したふん尿処理施設を提案いたします。ここに示した例は、あくまで、基本的な構造を提案したものです。それぞれの経営、ふん尿処理体系、利用方法などを考え、畜産農家自らが工夫を行うことにより、使い勝手のよい実用的施設になると考えます。

農業試験場では、利用上の課題をさらに検証するため、実用規模での実証施設を全道に設置し、さらに改良を進めることとしています。

ふん尿の性状で選択する処理施設は異なります。

乳牛舎から排出されるふん尿の性状は、飼養頭数、スタンション・フリーストールといった飼養方式、飼養頭数に対する敷料の使用量などで大きく変わり、その処理方法も変わります。

